

# たまいたま

## 川柳



白樺

平成27年

9月号 (No.670)

日川協加盟

### 巻頭言

聞く・語る・つづめる

願法みつる

聞くあるいは聴くとはあくまでも聴覚での感覚です。五感が満足な方であればそうでしょうが、見るあるいは視る感覚を失った方や衰えた方には、「音」の受け止め方が異なるのではないかと想像に難くありません。

「月見座頭」という狂言があります。中秋の名月も、自分では見ることは出来ないが、せめて野の虫の声に秋を楽しもうという筋出しです。彼は野面に流れる虫の音に、月を含んで広大な視覚の世界を楽しみます。この狂言の表白する内容とは異なりますが、川柳という世界に照らしたとき、ふつと気になることがあります。

所謂披講です

川柳初心者講座に一人の視覚不自由者が聴講に来られ、五回の講座に皆勤されました。何を語るにもせよ、一生懸命に耳そばだてて聞き入って居られる方に対して、仇疎かな言葉遣いは出来ません。板書するにしても、ゆっくり音読して明確に伝えようと勉めました。

句会での披講や大会での選者披講の時、つねにそのことを念頭に置きます。事実、大会会場には目の不自由な方がお出でになります。そのお一人こそ大事なお客様だと思えば、当然ながら読み上げの心掛けは定まります。披講は、自己表現でもあり、人間性の表出でもありません。

### 日日是好

願法みつる

尊徳は太郎花子を育て上げ  
銃持つも持たぬも祖国君の国  
鷹と舞うラベルのボレロ聴きながら  
神と神契約論でまだ揉める  
仏壇の前で真つ赤な嘘も吐き  
線香が揺れる悪魔が来たようだ  
君知るや金の力と血の甘さ  
地獄から冥王星に棲み替える  
蟻を悩ます数学の論理学